

# ごあいさつ



## 「無形の貯蓄」の追求

久光製薬にとって、CSR活動を考え実践する上で大きな柱と考えているのが、「無形の貯蓄」という考え方です。これは、企業の価値が売上高や利益などの経済的指標だけで決まるものではなく、企業の考え方とそれに基づいた行動に対するステークホルダーからの信頼と安心感によって、育まれるというものです。この考え方を基に、一人ひとりの従業員が、社会の課題を強く理解したうえで、自らの日々の業務を推進するという基本姿勢が重要です。

医療用医薬品事業をめぐる環境の中では、国として社会保険費の増大が大きな課題として認識され、ジェネリック医薬品の利用促進といった政策が打ち出されています。医薬品事業を営んできた企業にとっては財務的な影響が少なくないものの、着実な利益確保を目指し、医薬品の安定供給に努めなくてはなりません。

第5期中期経営方針では、社会動向による影響も踏まえながら、1. 国内市場での更なるプレ

ゼンス拡大、2. 海外での競争力強化、3. 新商品・新技術の創出と育成という3つの活動方針に基づいた着実な事業推進により、「世界の人々のQOL(クオリティ・オブ・ライフ:生活の質)向上を目指す」という経営理念の実現を目指します。

広く視線をグローバルに移すと、「無形の貯蓄」の考え方は、「サステナビリティ」として国家や市場において、さまざまな取り組み、ルール化がなされています。国内においてもコーポレート・ガバナンス・コードやステュワードシップ・コードの策定など、こういった考え方が広く社会に認知されてきていることは言うまでもありません。

## 久光製薬にとっての最適解を求めて

今、久光製薬に求められているのは、「無形の貯蓄」を単なるキャッチフレーズに留めることなく、具体的な方針、計画などに可視化して、これまで以上に説明責任を積極的に果たしていける態勢に進化させていくことではないかと考えています。



2015年度は、経営体制の変革など、新たな歴史をつくる契機であり、不確実な将来に向けて世界中が課題を抱える中、これまでと変わらずに一人ひとりの「QOL」に貢献するために何ができるかを真剣に見直す転換点と位置付けることができます。

お客さまが求めているものはなにか、患者さまが気付かずにいる課題がどこかにあるのではないか、製造工程において地域や自然環境に対しさらにできることはないか、従業員だけでなくその家族や関係するコミュニティの人たちに提供できるものがもっとあるのではないか、などといった基本的な疑問を真剣に検証することで、新たな久光製薬のCSR活動を推進していきたいと思えます。

代表取締役会長  
最高経営責任者（CEO）

中富 博隆

そうすることで、これまで各国の法規制などを適切に遵守してきた企業市民としての確かな基盤をさらに発展させ、経営とより密接に結び付いたCSR活動＝「無形の貯蓄」の理想に近づくことができるものと確信しています。

皆さまには、これまで以上に厳しい目で久光製薬のCSR活動を見守っていただきますよう、お願いいたします。弊社への要望、期待など率直なご意見を承ることで、私たちの活動改善につなげていきたいと思えます。

代表取締役社長  
最高執行責任者（COO）

中富 一榮